

各分野の連携項目

(1) 産業振興分野

- ・めざすべき姿 P 1
- ・連携項目等 P 2～11

(2) 観光振興分野

- ・めざすべき姿 P 12
- ・連携項目等 P 13～15

(3) 国際金融都市分野

- ・めざすべき姿 P 16
- ・連携項目等 P 17～18

(4) 各分野共通 P 19

【めざす方向性】

2025年大阪・関西万博を見据え、両府県の強みを活かした方策を集中的に実施することで、次世代成長産業の創出・育成をめざす

【めざす姿】

2025（万博開催）

万博の機会を活かして
革新的技術を提供

万博後

次世代技術の産業化

【連携分野】

スタートアップの創出・育成

ライフサイエンス産業
の創出・育成カーボンニュートラルの実現
（水素関連産業の創出・育成等）

空飛ぶクルマの実装推進

トッププロモーション

目標を共有したうえで、

兵庫・大阪が、協調と切磋琢磨をしながら
両府県のポテンシャルを高め、成長を実現

【目標】

万博までに、「大阪」「ひょうご・神戸」のスタートアップ・エコシステムを形成

- ◆「世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成計画」における、スタートアップ設立数
[大阪:300社、兵庫:76社]等の目標を達成し、東京と並び日本を代表するスタートアップ拠点到

【国の動き】

2022年を「スタートアップ元年」に位置付け

8月

年末

スタートアップの司令塔機能を明確化

- ・スタートアップ担当大臣を新設
- ・内閣官房に「グローバル・スタートアップ・キャンパス構想推進室」を設置

スタートアップの5年10倍増を視野に
「スタートアップ育成5か年計画」を作成

【今後の取組み】

スタートアップ・エコシステムの形成に向け、国の動きを踏まえながら、課題解決に向け連携

チャレンジする若手の
人材・企業の掘り起こし、
成長環境の整備

チャレンジする人材を発掘し、裾野を拡大するとともに、成長支援の環境整備を進め、SDGsをはじめとした様々な社会課題を解決する起業を創出

革新的な技術シーズの
事業化に向けた掘り起こし

国の「スタートアップ育成5か年計画」(本年末策定予定)や「グローバル・スタートアップ・キャンパス構想」を見据え、経営人材確保策の検討や特徴ある大学・研究機関等の技術シーズを核としたイノベーションやスタートアップを創出

【取組みの方向性】

連携・協調

▶ 人材や技術シーズの掘り起こし、国プロジェクト等へのアプローチ・PR

切磋琢磨・競争

▶ 上記連携を踏まえつつ、各拠点でのスタートアップの育成・事業化

【連携内容】

2022年度

2023～2025年度

チャレンジする若手の
人材・企業の掘り起こし、
成長環境の整備

◇ビジネスプランコンテスト
「スタートアップ甲子園（仮称）」を
共同開催

- ・学生・若手起業家を対象に実施
- ・2022年度兵庫県が実施する「アントレプレナーシップ（起業家）教育」の成果発表の場を大阪府が連携して開催

◇ビジネスプランコンテスト
「スタートアップ甲子園（仮称）」
を共同開催（2023年度大阪開催）

◇関西広域において2023年度までの
事業を効果検証した上で
「Youthビジネスプランコンテスト（仮称）」
の開催を共同提案

◇府県の「スタートアップ育成プログラム」等への交流を促進

革新的な技術シーズの
事業化に向けた掘り起こし

◇スタートアップ育成5か年計画へ
の対応

〔取組み例〕

- ・国の動きに係る情報収集、要望等検討
- ・経営人材確保に向けた支援

【参考】

京阪神スタートアップアカデミアコアリション（KSAC）
における取組み〔大学（22大学）、産業界・金融界・
官公庁（32機関）が参画〕

◇スタートアップ育成5か年計画
を踏まえた連携活動

〔取組み例〕

- ・グローバル・スタートアップ・キャンパス構想に
に向けた検討・要望活動
- ・経営人材確保策に関する情報収集
及び広域的な要望活動
- ・各府県の大学の特徴的なシーズの
事業化支援 など

【目標】

万博を契機に、兵庫・大阪の拠点間連携を強化し、
兵庫・大阪が革新的技術の産業化をけん引

【今後の取組み】

ライフサイエンス産業の成長に向け、産学官の多様な主体の交流促進、万博テーマと親和性が高いライフサイエンス分野のポテンシャルの発信の点から取組みを実施

産業化に向けた
革新的技術の創出

兵庫・大阪の産学官連携の強化を図り、イノベーションを創出

ネットワークの強化

兵庫・大阪の各拠点の連携・ネットワークの強化により、産業化を支援

革新的技術等の
情報発信

兵庫・大阪のポテンシャルやライフサイエンス産業にかかる取組みを海外へ発信



▲神戸医療産業都市
(出典)神戸市

兵庫県

神戸医療産業都市を核に、
研究開発拠点
(理研・SPRING-8等)や
医療関連産業が集積



▲「未来医療国際拠点」イメージ
(出典)一般財団法人未来医療推進機構HP

大阪府

彩都、健都、中之島
(未来医療国際拠点)など
3拠点の形成及び3拠点間
の連携

拠点間連携を促進し、
ライフサイエンス産業の成長を促進

【取組みの方向性】

連携・協調

情報発信、産学官のネットワーク強化

切磋琢磨・競争

再生医療等の革新的技術の産業化

【連携内容】

2022年度

2023～2025年度

産業化に向けた
革新的技術の創出

- ◇「大阪府産学官ライフサイエンスイノベーションステージ」への兵庫県企業の参画
 - ・企業と大学・研究機関等との意見交換

- ◇アジア最大級のビジネスマッチング「BioJapan」の共同出展に向けた検討
 - ・府県事業者のビジネスマッチングを支援

- ◇兵庫県研究施設「SPRING-8兵庫県ビームライン」に係る府内企業の共同利用（2022年度利用開始）
 - ・大阪府内事業者向け説明会の開催

ネットワークの強化

- ◇各拠点における産学官連携の推進
 - ・彩都バイオインキュベーション施設の運営、健都におけるワンストップ窓口設置

- ◇各拠点における産学官連携の拡大
 - ・神戸医療産業都市等との産学官連携

革新的技術等の
情報発信

- ◇再生医療等の情報発信の手法等の検討
 - ・神戸医療産業都市、未来医療国際拠点（2024年開設予定）等を活用し、再生医療等のポテンシャルを広く発信するためのコンテンツ展示やイベント、万博会場との連携方策を検討

- ◇海外プロモーションの実施
 - ・未来医療国際拠点等における先進的な取組みを「Nature」誌を活用して世界に発信

- ◇万博と連携した再生医療等の情報発信
 - ・再生医療等の情報発信のためのコンテンツを制作し、万博会場内外での発信
 - ・未来医療国際拠点など関西圏の拠点における発信を検討

【目標】

カーボンニュートラルの実現に向けた水素の利活用拡大をめざす

【水素の利活用拡大に向けた取組の方向性】

大阪・関西万博が開催される2025年をターゲットに

- 万博会場内外での最先端技術の披露、技術の実証・活用
- FCバス・FC船活用など、ゼロエミッションモビリティの社会実装に向けた支援

2022年

水素活用プロジェクトの実現

水素技術の実用化に向け
技術開発を加速化

2025年

大阪・関西万博

万博会場内外での
水素技術実証



2030~2050年頃

2030頃

輸入水素の本格導入

2050頃

カーボンニュートラルの実現

(参考) H2Osakaビジョン2022

【今後の取組み】

◆ 2025年の大阪・関西万博をターゲットに

(1) 水素技術の実用化に向けた支援 (2) ゼロエミッションモビリティの社会実装に向けた支援 に取組む

【連携内容】

2022年度

2023～2025年度

水素関連技術の実用化
に向けた支援◇事業者によるコンソーシアム
ネットワークの相互利用支援◇県域・府域における実証実験を
実施兵庫：日豪間の国際水素サプライチェーン構築に
向けた実証 等
大阪：カーボンニュートラル技術開発・実証補助金
を活用した水素関連技術の万博に向けた
開発・実証等◇中小企業の水素関連産業への
参入に向けたマッチングを開催
国と連携しイベントを開催◇国際フロンティア産業メッセ
（県主催）への府内企業出展◇最先端技術の万博会場内外での
披露に向けた支援万博会場内外での、CO2フリー水素の活用、水素
で発電した電力の利活用など水素技術の利活用
に向けた取組みを支援◇補助金による事業者支援や
事業者間マッチングなどを開催

国とも連携し、水素の利活用を促進する取組みを支援

ゼロエミッションモビリティ
の社会実装に向けた支援

◇FCバス導入促進に向けた支援

・FCバスの運行データ等の分析、
導入環境検証等（H2Osakaビジョン推進会議）

【参考】

FCバス導入費用に対して補助（令和3年度実績）

※現在のFCバスの導入台数

兵庫県：1台

大阪府：2台

◇水素旅客船の試験運航に向けた
支援

ベイエリアでの運航を目標

◇水素ステーションの誘致促進

・廉価な水素供給が可能となるよう水素ステーション
整備促進に向けた国の財政支援を働きかけ
・ゼロエミッションモビリティ活用エリアへの水素
ステーションの効果的な誘致方策の検討

【目標】

万博開催時に、ベイエリアで「商用運航」を実現



(出典)空の移動革命社会実装に向けた大阪版ロードマップアクションプラン(一部加工)

【今後の取組み】

空飛ぶクルマの実現に向け、国とも連携しながら、「実証実験の支援」「社会受容性の向上」「離着陸場の整備」の点から取組みを実施

実証実験の支援

実用化に向けた課題抽出、事業者の技術開発やルート開発の支援

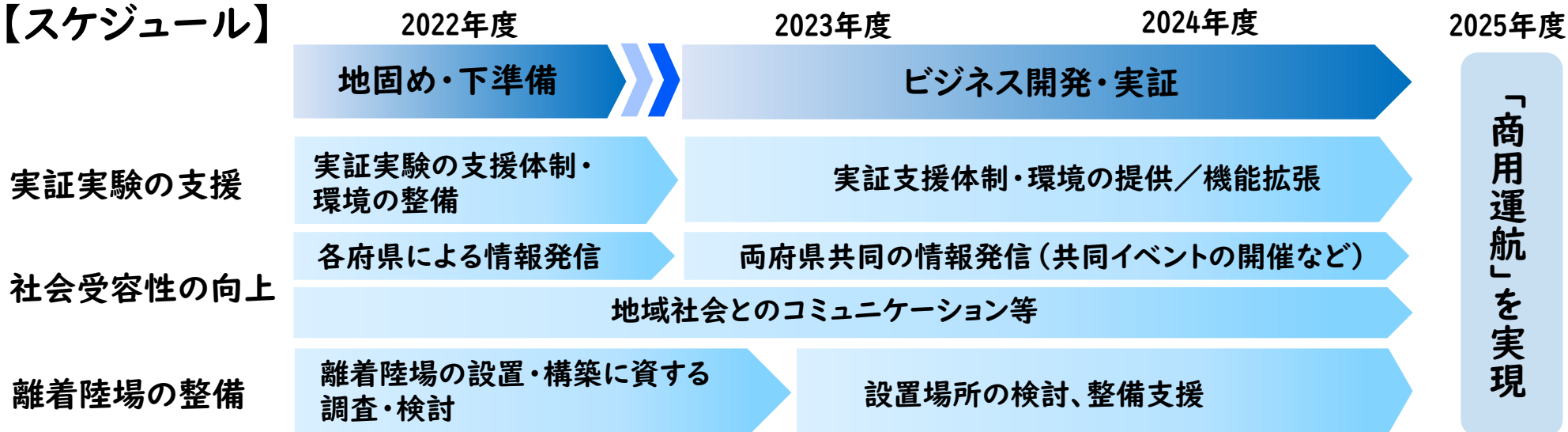
社会受容性の向上

空飛ぶクルマの安全性や利便性等について、府県民等の理解の促進

離着陸場の整備

事業者による離着陸場整備に向けた支援、国への働きかけ

【スケジュール】



【連携内容】

2022年度

2023~2025年度

実証実験の支援

◇実証実験の支援体制・環境の整備

- ・ベイエリア・陸地における課題抽出
- ・補助金の活用による事業者支援
- 大阪：空飛ぶクルマ都市型ビズ 初創造都市推進事業補助金

◇実証支援体制・環境の提供／機能拡張

- ・事業者ニーズに応じた両府県による環境整備
- ・実証フィールドの相互提供
- ・両府県補助金の活用による事業者支援
- ・国への働きかけ

- ・機体の研究開発・実証事業への技術・財政支援
- ・運航環境・安全性に関する制度整備
- ・試験飛行に係る許認可申請等手続きの簡素化

社会受容性の向上

◇社会受容性の向上のための情報発信

- ・兵庫：「万博1000日前空飛ぶクルマ イベント」開催（R4.7）
「国際フロンティア産業メッセ」における次世代モビリティの展示（R4.9）
- ・大阪：シンポジウム開催や広報用動画の作成

◇【2023年度】両知事出席の共同イベントの開催を検討（イベント概要案）

- ・空飛ぶクルマの飛行デモンストレーション
- ・実機への乗降体験会 など

◇府作成動画の共同利用

離着陸場の整備



▲空飛ぶクルマイメージ
（出典）経済産業省

◇離着陸場の設置・構築に資する調査・検討

- ・離着陸場候補地について、大阪府内を起点とする運航ルート・離着陸場の調査・検討
（※兵庫も運航エリアとして調査範囲内）

◇設置場所の検討、整備支援

- ・2022年度の調査を踏まえ、ルート開発、離着陸場整備に向けた各種調整・事業者支援
- ・実証実験を踏まえた国への働きかけ

- ・離着陸場の整備に関する制度整備
- ・整備に係る補助制度の創設

【目標】

万博を契機として、兵庫・大阪のポテンシャルを発信し、

- ◆ 国内外から「ヒト・モノ・投資」を呼込む
- ◆ 国内外へ産業資源を売込む

【今後の取組み】

- ◆ 兵庫・大阪の一体的な魅力・強みを国内外に向けて共同発信
- ◆ 特に、成長分野をターゲットにトッププロモーションを強化

「大阪・関西万博」を契機に、
「兵庫・大阪のポテンシャル」
を発信

経済・産業

東京に匹敵する規模を有する経済圏域

人口：14,238千人（東京：14,010千人）
事業所数：577,925社（東京：616,002社）
従業者数：7,098千人（東京：9,935千人）
関西の域内総生産の約7割を創出

インフラ

国内はもとより

世界・アジアへのアクセス抜群

- 港湾
（神戸、大阪、尼崎西宮芦屋、堺泉北等）
- 空港
（神戸、大阪国際、関西国際等）
- 鉄道・道路
（新幹線、阪神高速、中国自動車道等）

成長分野

- 2025年に、世界的ビッグイベントである「大阪・関西万博」を開催
⇒「未来社会の実験場」としてイノベーションを実証・実装



提供：2025年日本国際博覧会協会

- 水素・燃料電池、ライフサイエンス等の分野で日本をリードする産業集積地域

【取組みの方向性】

連携・協調

▶ 兵庫・大阪の魅力・強みを発信

切磋琢磨・競争

▶ 企業立地や投資の促進

【連携内容】

2022年度

府県それぞれの機会・媒体を活用し
一体的な魅力・強みを相互発信

2023～2025年度

成長分野をターゲットに
共同でのトッププロモーションを検討

国内向け

◇「大阪未来ビジネスセミナー」の開催
⇒兵庫県のPR動画配信(8月26日)会場:ナレッジキャピタル コングレガーションセンター
(オンラインとのハイブリット開催)

テーマ:

- ・空飛ぶクルマ(商用運航実現に向けた取組みの紹介等)
- ・カーボンニュートラル(技術開発等支援の紹介等)

◇「兵庫県首都圏企業誘致セミナー」の開催
⇒大阪府のPRブース出展(11月22日)◇首都圏でのセミナーの共催
⇒両知事によるトッププロモーション

- ・兵庫・大阪の共同プロモーションを首都圏で展開し、両府県への企業立地や投資を促進

海外向け

◇両府県の海外事務所における相互発信

- ・各海外事務所において実施するビジネスセミナーや商談会で両府県が持つポテンシャルをPR(海外事務所の所在地)
- ・兵庫:ワシントン、パリ、香港
- ・大阪:上海

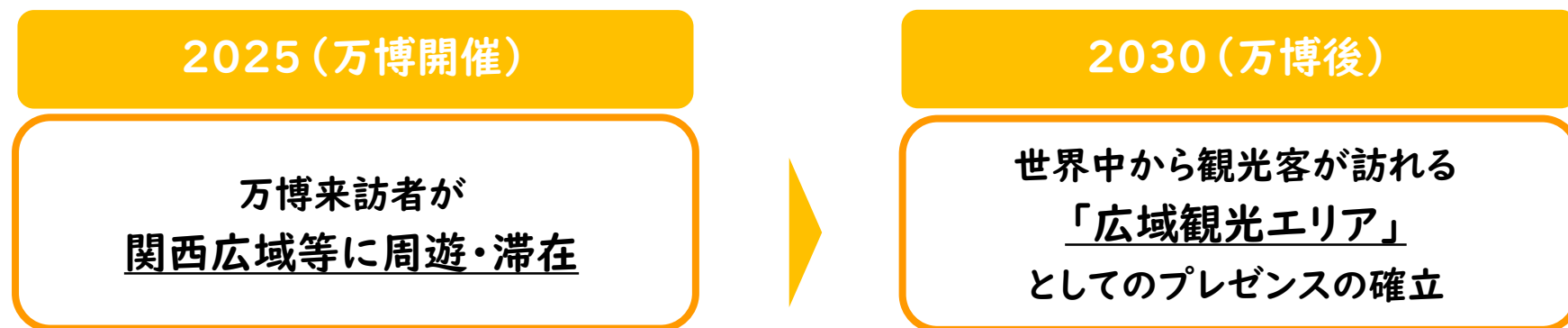
◇両府県の海外プロモーションでの一体的な魅力・強みの発信

- ・各海外事務所に加え、国際見本市等での共同PRを実施

【めざす方向性】

- ◆ 観光分野での連携を一層深め、兵庫・大阪地域に世界有数の広域観光エリアを形成
- ◆ 万博・IRを契機に、兵庫・大阪がもつ多彩な観光資源を発信し、さらなる観光客の増加につなげる

【めざす姿】



【連携分野】

観光メニューの充実

トップセールス
(プロモーション)海上交通など
周遊観光の充実

【目 標】

両府県がもつ多彩な観光資源を活用し、
コロナ禍で落ち込んだ観光客の早期回復と、万博時にはそれを上回る誘客を達成

【今後の取組み】

多様な観光資源を強かに発信するため、旅行者ニーズをとらえた観光コンテンツの創出

【連携内容】

2022年度

コロナ禍の需要喚起と、
ポストコロナを見据えた取組

- ◇ 現状分析・コンテンツの洗い出し
 - ・ひょうご観光本部や大阪観光局が持つデータ等も活用した、兵庫・大阪エリアの観光周遊に関する現状分析・ニーズ把握の実施
- ◇ 若い世代に向けた旅行コースの開発
 - ・阪神間を多く訪れており、将来のリピーター獲得にもつながる「若い世代」に向けた、大阪・関西万博がめざす「SDGs」等をテーマに設定した兵庫・大阪ならではの教育旅行コースの開発、旅行会社等への提案

コンテンツ
創出

2023～2025年度

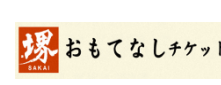
ポストコロナの国内観光の充実と、
インバウンド対策の強化

- ◇ 広域周遊コースの開発
 - ・兵庫・大阪における一体的な観光ニーズの調査・実証等を通じた、双方の観光コンテンツの強みを活かした広域周遊コースの開発・提案
- ◇ 海上交通と連携した周遊コースの開発
 - ・実証結果を踏まえた、海上交通と陸路を組み合わせた周遊コースの開発
- ◇ インバウンド向け教育旅行コースの開発
 - ・主にインバウンドを対象とした教育旅行の周遊コースの開発

周遊促進

◇ 主要都市の既存観光パスの相互利用促進

- ・観光案内所での観光パスの相互案内
- ・各観光パスのホームページでの相互リンク



【今後の取組み】

デジタル技術等を活用しながら、国内外の観光客に対し、効果的なプロモーションを展開

【連携内容】

2022年度

コロナ禍の需要喚起と、ポストコロナを見据えた取組

プロモーション



◇ 国内向け共同プロモーションの実施

- ＊「全国旅行支援」の開始に合わせて実施（R4.10月以降想定）
- ・首都圏や国内主要都市の主要駅でデジタルサイネージやSNS広告などへの共同出稿
- ・両府県の観光客の特徴を踏まえ、近隣府県の都市に対しても鉄道広告等を共同で実施

情報発信



◇ インバウンド受入本格再開に向けた情報発信

- ・ひょうご観光本部・大阪観光局が連携したインバウンド向けプロモーション（例：インフルエンサーによる旅行記事作成等）
- ・インバウンド向けの感染症対策マナー啓発パンフレットを両府県の観光案内所等で配布

2023～2025年度

ポストコロナの国内観光の充実と、インバウンド対策の強化

◇ 万博に向けたトッププロモーション等の実施

- 2023年 ・ ツーリズムEXPO等の商談会への共同出展や特設会場を活用した両知事からのトッププロモーションを実施



両知事による海外でのトッププロモーション実施（～2025年）

- 2025年 ・ 万博開催期間中は諸外国の来場者に対し、兵庫・大阪地域を広域観光エリアとしてPR



- ・ 万博後は大阪関西万博のインパクトを活かしつつ、広域観光エリアとしての魅力を海外へ発信

【今後の取組み】

兵庫・大阪を訪れる観光客の増加につながる水上交通も含む観光ルートの整備

【連携内容】

2022年度

クルーズ船等を活用した実証事業の
実施に向けた準備

2023～2025年度

万博に向けた海上交通の活用による
広域周遊の実現

周遊ツアー

- ◇ 発着地での観光コンテンツを含めた、海上交通を利用したインバウンド向け観光モデルツアーの実施
 - ・ 関空を起点に、兵庫・大阪間を船上コンテンツを楽しみながら周遊できるツアー
 - [航路] 関空～淡路交流の翼港～神戸港～大阪港
 - ・ 兵庫県からクルーズ船による万博会場へのアクセス及び大阪湾沿岸を周遊するインバウンド向け、富裕層向けの観光モデルツアー
 - [航路] 洲本港～須磨～中之島GATE

新しい
水上交通

- ◇ 船上での会議や体験イベント等を含む、兵庫・大阪をつなぐ新しい海上交通（クルージングMICE）の可能性の検証
 - ・ 将来の大阪湾ベイエリアでの開催を見据え、訪日団体と兵庫県が船上での会議等を開催

- ◇ 夢洲での兵庫・大阪の旅客船事業者の相互乗入等を検討
- ◇ 実証事業内容をベースにした旅行商品化（万博入場券とセット）の検討
- ◇ 兵庫から大阪市内へ水上ルートで周遊する社会実験の実施
- ◇ 船員法の一律適用の見直し等、海上交通の充実に向けた規制緩和の共同提案

【めざす方向性】

- ◆ 「経済の血液」とも言われる金融機能の強化を図ることは、ポストコロナに向けた大阪・関西の成長・発展に寄与するとともに、府民の利益・幸福につながる。
- ◆ 金融分野を大阪・関西の新たな成長の柱とするだけでなく、日本全体の経済発展にもつなげるため、国際金融都市の実現をめざす。

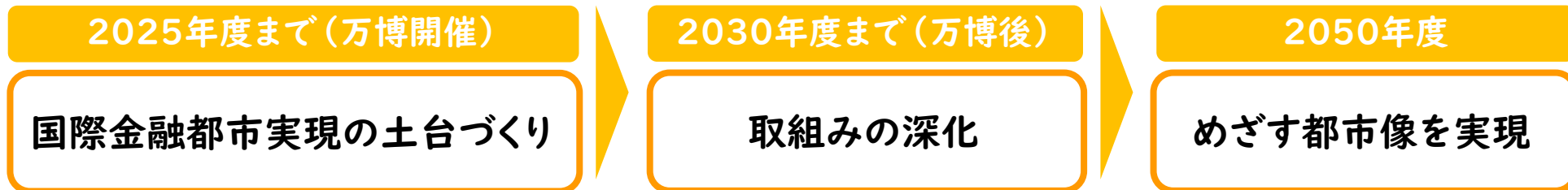
めざす都市像

- ◆ アジア・世界の活力を呼び込み「金融をテコに発展するグローバル都市」
- ◆ 先駆けた取組みで世界に挑戦する「金融のフロントランナー都市」

戦略目標

(アウトプット目標) 国際金融ワンストップサポートセンター大阪の相談件数	2025年度までに100社／年平均
(アウトカム目標) 金融系外国企業(フィンテック含む)・投資家等の誘致数	2025年度までに30社
(アウトカム目標) ユニコーン・スタートアップ・大学発ベンチャー創出数	2024年度までにユニコーン3社、 スタートアップ300社(うち大学発100社)

【めざす姿】



【目標】

国際金融都市OSAKA実現に向けて、兵庫・大阪の魅力を国内外に向け、連携して発信

【今後の取組み】

国際金融都市をめざす大阪府の取組みに、歴史的に国際的な地域である兵庫県が協力

外国人にとっても
魅力的な生活環境の提供

教育・医療等における環境整備や多言語での情報発信等を実施

情報発信・プロモーション

兵庫・大阪それぞれの強みを活かしたプロモーション活動を展開

金融分野における人材育成等

金融教育、金融面からのSDGs等を推進

【兵庫・大阪の強み】

ビジネス・金融

- ライフサイエンス産業の集積
- 科学技術基盤の集積
- うめきた2期等イノベーション拠点創出
- 2025年の大阪・関西万博開催
- デリバティブ発祥の地
- 2つの取引所が存在

生活環境

- 伝統ある外国人学校
- 外国語対応可能な病院等
- 安らぎのある落ち着いた住環境

優れたビジネス環境、金融面での強み、外国人にも優しい生活環境など

国際金融都市をめざすポテンシャル

2022年度

2023年度以降

外国人にとっても
魅力的な
生活環境の提供

◇国際ナショナルスクールに係る実態調査
(大阪府)

・調査内容を踏まえ、情報開示を促進

◇魅力的な住環境をHPでPR

外国人が安全で安心して生活できる住環境をPR

・伝統ある教育を行う外国人学校

・外国語対応が可能な病院

・その他生活相談機関、各種宗教施設など

◇情報発信・プロモーションの連携

・大阪府国際金融HPにおいて、県の魅力的な
住環境を紹介

◇金融リテラシーや金融に関する知見の
高い職員の育成

・研修素材の共用等

◇「国際金融都市OSAKA推進委員会」へ
の兵庫県のオブサーバー参画

◇情報発信・プロモーションの連携
を検討

◇海外プロモーション実施時の
連携を検討

・両府県の海外でのプロモーションの中で、
国際金融都市についてPR

◇大学等における金融・起業・テク
ノロジー等教育の連携を検討

◇金融面からの企業のSDGs推進

金融分野における
人材育成等

- ◆ 万博を契機として、まずはインバウンドの早期回復をめざすとともに、海外から「ヒト・モノ・投資」を呼び込むため、海外における「両府県知事によるトッププロモーション」を実施

【トッププロモーションの視点】

◇ 大阪・関西万博のPR

- ・ 2025年に開催する万博は、世界中から人々が集まる絶好の機会
- ・ この機を逃さず、広域観光エリアとして海外にPR

◇ インバウンド回復に向けたPR

- ・ 令和4年6月、インバウンドの受入れが再開
- ・ 今後の受入れ拡大に合わせ、コロナ禍で急激に落ち込んだインバウンドを再び取込む必要

◇ 兵庫・大阪の一体的な強みのPR

【兵庫県】

高度なものづくり産業、世界有数の科学技術基盤の集積、ブランド農産物 など

【大阪府】

水素・燃料電池、ライフサイエンス等の成長分野、国際金融都市実現に向けた取組み、豊かな食文化 など

【共通】

東京に匹敵する経済圏域、港湾・空港など抜群の交通アクセス など

海外に売り込むコンテンツ
ターゲットとする地域
を整理

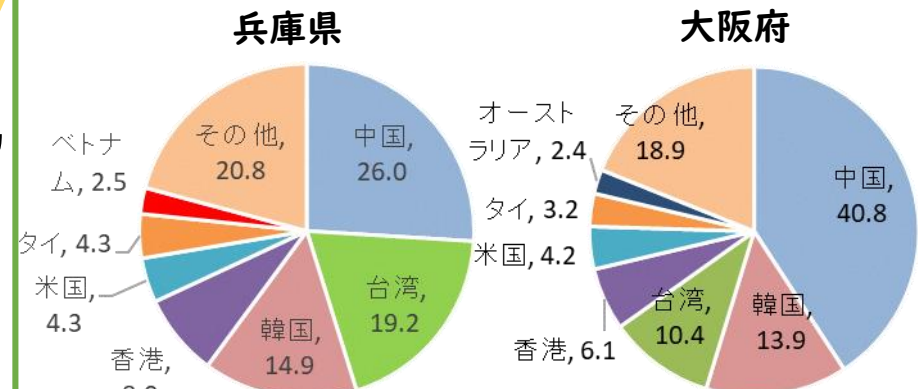
【トッププロモーションの実施】 (2023~2025年度)

■ 優先順位をつけながら、両府県知事による効果的なプロモーションを実施

- ⇒ まずは、大阪・関西万博の成功に向けインバウンドの復活をめざす
- ⇒ これに合わせ、産業分野でのPRも実施

【参考】

・兵庫・大阪への国別訪問者の構成比(%)



(観光庁：訪日外国人消費動向調査2019年) 19